

基本目標1 みんなが支え・支えられる地域づくり

基本施策1 地域住民の地域生活課題の把握、取組促進

主な取組・事業(1)	地域住民があつまる場の充実	計画書	P46	～	P47
------------	---------------	-----	-----	---	-----

評価①

市	事業・取組	地域介護予防活動 支援事業	地域において高齢者自ら活動に参加し、介護予防に向けた取り組みが主体的に行われるような地域社会の構築を目指して「はつらつセンター事業」や「介護予防ボランティア育成事業」(ますます元気サポーター活動支援)、「地域づくり型介護予防事業」(あつたかとちぎ体操)等を積極的に実施し、地域介護予防活動の場の拡大・充実を支援します。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 地域の介護予防や健康づくりを推進するため、ますます元気サポーターの活動支援を行った。 あつたかとちぎ体操の団体の立ち上げ支援や、活動支援を行った。	
	課題及び今後の取組方針	ますます元気サポーターの活動状況を把握し、必要な活動の支援及び協力を行う。 参加者の高齢化により担い手がいらないため、継続が難しい団体がある。地域住民が交流の場を通して、住民主体の介護予防・交流が図れるよう、あつたかとちぎ体操の普及・啓発活動・活動支援を行う。	

市	事業・取組	地域子育て 支援センター	乳幼児及び保護者が相互の交流を図り、子育てについての相談、情報の提供、助言、講習その他の支援を行います。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 令和7年度は、市内17か所の地域子育て支援センターにおいて、0歳から6歳の未就学児とその保護者(延べ51,215名)が利用するとともに、育児相談を1,003件受け付けた。 各センターでは、子育てに関する相談・助言、地域の子育て関連情報の提供、育児講習等を実施し、子育て中の親子が気軽に集い交流できる場として機能している。	
	課題及び今後の取組方針	少子化・核家族化が進む中、子育て中の保護者が孤独感や不安感を抱えやすい環境となっており、地域における子育て支援機能の一層の充実が求められている。 引き続き、民間・公立の子育て支援センターが連携し、乳幼児活動や相談事業、交流・参加型事業の充実を図ることで、「地域の子育て支援拠点」としての機能強化に努める。 栃木市こども計画に掲げる「地域における子育て・子育てへの支援の推進」の方向性を踏まえ、利用者のニーズを的確に把握しながら質・量ともに十分な受け皿となるよう事業の充実を図るとともに、子育て支援センターの更なる周知・PRに取り組み、利用促進を図る。	

社協	事業・取組	地域のお宝さがしの実施	地域に根付く住民の身近にある居場所(井戸端会議等)や支え合い活動を「地域のお宝」と称し、生活支援コーディネーターや地域福祉サポーターを中心として発掘や発見し「見える化」を進めます。(発表会を適宜開催)
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 地域で行われている支え合い活動や交流の場を「地域のお宝」として発見・認定し、地域住民同士がつながり、孤立することなく安心して暮らし続けられる「つながりある地域づくり」を推進した。 また、「地域のお宝」の認定証授与式を福祉功労者表彰式と併せて開催することで、地域活動の重要性や支え合いの意義について住民への啓発を図った。	
	課題及び今後の取組方針	啓発活動は行っているが、情報を必要としている住民(つながりを必要としている住民)への周知は十分とは言えない。 啓発活動を継続して実施していくとともに、広報誌(ふくぴーたより)などの媒体により、多くの住民に認知出来るよう周知活動を行う。	

社協	事業・取組	コミュニティカフェの実施	民間店舗の一部を借用するなど、企業との連携を含めて認知症カフェやコミュニティカフェ等を住民の身近な場所に設置し、当事者や参加者がそれぞれの役割を持ちながら「社会参加のきっかけ」や「つながる場」として推進します。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 年齢や障がいの有無に関わらず、地域のあらゆる住民が自分らしく暮らし、それぞれの役割を持ちながら参加できる「地域共生社会」の実現を目指し、地域住民の交流や相談の場としてコミュニティカフェを年間55回開催し延べ2,010人の参加があった。 カフェでは、参加者同士の交流促進や孤立防止、気軽に相談できる関係づくりを図るとともに、地域のつながりづくりを推進した。	
	課題及び今後の取組方針	カフェまでの距離が遠いことから参加出来ていない住民がいるほか、開催内容などにより参加していない住民もいたため、多様なコミュニティカフェを開設し、参加しやすい環境づくりを進める。	

評価②

数値目標		R06	R07	R08	R09	R10	R11	自己評価	点数	評価基準
市	多機関協働事業新規相談年間受付件数	目標値	14	14	15	15	16	3	4	順調に進んでいる
		実績値	17	15					3	概ね順調だが不十分な点が少しある
市・社協	日常生活圏域ケア会議兼地区懇談会延べ参加人数	目標値	1,050	1,082	1,114	1,147	1,182	4	2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
		実績値	1,628	1,543					1	実施方法も含め改善が必要である
市・社協	アウトリーチ等を通じた継続的支援事業生活支援コーディネーター活動件数	目標値	1,750	1,800	1,850	1,900	1,950	4		
		実績値	1,883	2,144						
社協	地域のお宝さがしで認定された地域のお宝の数	目標値	45	59	72	84	96	2		
		実績値	33	41						
社協	ちょこっとジョブ応援事業所合計数	目標値	5	10	15	20	25	4		
		実績値	14	18						

評価③

【取組における成果】【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】	
【取組における成果】 ●地域介護予防活動支援事業やコミュニティカフェ事業について、開催回数・参加者数共に充実している。 【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】 ●地域介護予防活動支援事業：参加者の高齢化により担い手がいないため、継続が難しい団体がある。 ●コミュニティカフェ：カフェまでの距離が遠いことから参加出来ていない住民がいるほか、開催内容などにより参加していない住民もいたため、多様なコミュニティカフェを開設し、参加しやすい環境づくりを進める。	

評価④

推進懇談会評価	
・コミュニティカフェやオレンジカフェ等について周知不足により、開催場所が分からないという声もある。地域の集まる場等を視覚的に提示するなど、地域住民に向けた積極的なPRをしていただきたい。 ・今後、地域住民にとって身近な場所で多様な種類の集まる場を整備していただきたい。	
基本目標の実現に向けた現状の評価	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1

基本目標1 みんなが支え・支えられる地域づくり

基本施策1 地域住民の地域生活課題の把握、取組促進

主な取組・事業(2)	地域生活課題を話し合う場の充実	計画書	P47	～	P47
------------	-----------------	-----	-----	---	-----

評価①

市	事業・取組	日常生活圏域ケア会議 兼地区懇談会の開催	地域内の地縁組織メンバーや行政職員、社会福祉協議会職員、介護事業所専門員等が参加し、顔の見える関係づくりや相互に相談し協働ができるネットワークを構築しながら、地域の強みや課題解決に向けた対策等を話し合うことで「支え合える地域づくり」を目指します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる	
	課題及び今後の取組方針	地域づくりを目指していくため、関係者と共に地域の課題を把握し、解決に向けた対策などを検討する機会として「日常生活圏域個別ケア会議」を各地域包括支援センターごと継続的に開催している。	

社協	事業・取組	日常生活圏域ケア会議 兼地区懇談会の開催	地域内の地縁組織メンバーや行政職員、社会福祉協議会職員、介護事業所専門員等が参加し、顔の見える関係づくりや相互に相談し協働ができるネットワークを構築しながら、地域の強みや課題解決に向けた対策等を話し合うことで「支え合える地域づくり」を目指します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる	
	課題及び今後の取組方針	地域におけるニーズの把握や生活福祉課題の明確化を進めるとともに、地域住民同士の情報共有を促進することを目的として、各地区社会福祉協議会等に働きかけ、日常生活圏域ケア会議兼地区懇談会を29回開催した。会議では、地域課題の共有や支援体制の検討を行い、多様な関係機関や地域住民が連携しながら地域づくりを進めた。	

社協	事業・取組	協議体活動の支援	互助を中心とした地域づくりを住民主体で進めるために、地域内の多様な主体メンバーが参加し、地域課題の発掘や活動内容を検討していく協議体活動を支援します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる	
	課題及び今後の取組方針	「地域共生社会」の実現に向けた地域づくりの強化を図るため、住民が主体的に地域課題を把握し、解決に向けた取組を進める協議体の設置を地域へ働きかけるとともに、各協議体の活動支援を行った。協議体では、地域の実情に応じた課題共有や支え合い活動の検討を進め、住民主体による地域づくりの推進を図った。(協議体設置数 7地区)	

評価②

数値目標			R06	R07	R08	R09	R10	R11	自己評価
市	多機関協働事業新規相談年間受付件数	目標値		14	14	15	15	16	3
		実績値	17	15					
市・社協	日常生活圏域ケア会議兼地区懇談会延べ参加人数	目標値		1,050	1,082	1,114	1,147	1,182	4
		実績値	1,628	1,543					
	アウトリーチ等を通じた継続的支援事業生活支援コーディネーター活動件数	目標値		1,750	1,800	1,850	1,900	1,950	4
		実績値	1,883	2,144					
社協	地域のお宝さがしで認定された地域のお宝の数	目標値		45	59	72	84	96	2
		実績値	33	41					
	ちょこっとジョブ応援事業所合計数	目標値		5	10	15	20	25	4
		実績値	14	18					

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】

【取組における成果】

●日常生活圏域ケア会議・地区懇談会を共催にて29回開催し、地域課題の共有や支援体制の検討を行い、多様な関係機関や地域住民が連携しながら地域づくりを進めた。

【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】

●地域課題の解決に向けた具体的な手段や人材等が不足しており、活動への取組みや立ち上げが難しい状況である。
●今後も地域課題は更に複合化、複雑化することが予想されるため、地域内の地縁組織メンバー、社会福祉協議会職員、介護事業所専門員等と連携しながら、地域のつながりや支えあいを中心に、自分らしく暮らしやすい地域を目指して地域関係者とのネットワーク構築を進めていく必要がある。

評価④

推進懇談会評価

・コミュニティカフェやオレンジカフェ等について周知不足により、開催場所が分からないという声もある。地域の集まる場等を視覚的に提示するなど、地域住民に向けた積極的なPRをしていただきたい。
・今後、地域住民にとって身近な場所で多様な種類の集まる場を整備していただきたい。

基本目標の実現に向けた現状の評価

4

・

③

・

2

・

1

基本目標1 みんなが支え・支えられる地域づくり

基本施策1 地域住民の地域生活課題の把握、取組促進

主な取組・事業(3)	多様な人や資源とのつながりの創出	計画書	P48	～	P48
------------	------------------	-----	-----	---	-----

評価①

市	事業・取組	地域活動 支援センター	地域のニーズに沿った施策の再構築をすすめ、これまで継続されてきた創作的活動・生産活動の機会を提供していくとともに、地域との連携を密にし、誰もが利用しやすい要支援者の環境整備に取り組みます。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 通所する障がいのある方に、創作的活動・生産活動の機会の提供、社会との交流促進等、障がいの状態に応じた適切な支援を行う。	
	課題及び今後の取組方針	地域に日中活動のできる施設が少ないため、サービスの公平な利用を確保するとともに、地域の実情に合わせた施設の活用を努める。	
市	事業・取組	シニアクラブ事業	高齢者と同世代の方々や地域の人々との交流をサポートし、支え合いの意識を育むことや、地域コミュニティにおける助け合いを促進します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる シニアクラブ連合会および老人クラブの活動に対して補助金を支出した。クラブのイベントに市で後援を行った。	
	課題及び今後の取組方針	各単位老人クラブの会員数が減少傾向であるため、クラブの活発化のため、定期的な補助金の見直しや、シニアクラブ活動の周知を図っていく。	
市	事業・取組	高齢者 ふれあい相談員事業	高齢者ふれあい相談員が、70歳以上の人のみが暮らす世帯に訪問し、安否確認や相談に応じます。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 市内在住の70歳以上のひとり暮らし及び高齢者世帯に対し、定期的に訪問し、安否確認や相談・助言などを行った。 また、市が毎月発行する「ふれあい通信」を届けた。	
	課題及び今後の取組方針	ふれあい相談員の確保が難しくなっていることが課題のため、市民全体に対して事業のPR、募集活動を積極的に行う。 支援の必要な高齢者が孤立することがないよう、地域福祉の充実をコミュニケーションの一助となるよう、制度を継続するとともに更なる充実を図っていく。	
市	事業・取組	生活支援体制 整備事業	高齢者の生活支援ニーズに合わせた地域資源の発掘やマッチングを担う生活支援コーディネーターを配置するとともに、地域に不足する資源を創出するための協議の場となる協議体の設置も行い、生活支援サービスの提供体制を整備します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 地域の高齢者の日常生活を支えるために、日常生活圏域に生活支援コーディネーターを配置し、地域ニーズに合った提供サービスのマッチング及び不足する地域資源の開発への働きかけを行った。 また、地域における一体的な生活支援サービスの提供体制を整備するため、多様なサービス提供主体による協議体を設置し、検討を行った。	
	課題及び今後の取組方針	引き続き地域資源開発に取り組んでいく。 協議体の設置ができていない日常生活圏域があるため、協議体設置に向けて取り組んでいく。	

社協	事業・取組	参加支援事業 「ちょこっとジョブ・ちょこっとボランティア応援事業」	就労経験が少なく、自分に自信がない等の理由により就労に繋がらない者に対して、足掛かりとして民間事業所等の協力を得ながら、当事者に合ったボランティアや就労の機会を提供し、地域とのつながりを持ち、自立した生活や社会参加を進めていきます。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 就労体験が乏しく空白がある、自分に自信がない等の理由から、なかなか就労に至らない方々を対象に、自信を取り戻す第一歩として、延べ132人に就労体験を、延べ294人にボランティア体験を実施した。 いろいろな経験をした結果、社会参加が可能となり、支援終了(自立・就労など)となった利用者が9人いた。	
	課題及び今後の取組方針	今後は、対象者の自立に向け様々な体験を実施することで、スムーズに社会参加が図れるよう、参加者の状況に応じた支援を継続して実施していく。	

社協	事業・取組	多世代交流イベント事業の開催	福祉まつりや世代間交流事業等の交流イベントを開催し、高齢者や障がいのある人等の当事者と参加者の交流を促し、つながりを生むことや相互の支え合い活動等や共生社会の推進を図ります。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 福祉やボランティア活動に関する啓発及び市民相互の交流を目的として、福祉まつり等の開催支援を行なった。 また、障がいのある方もない方も一緒に交流できる機会を設けることで、地域住民が互いへの理解を深め、助け合いとつながりを育む意識の醸成を図ることを目的に、ふれあい交流会(車いすバスケ)を実施し25人の参加があった。	
	課題及び今後の取組方針	多世代で交流できるイベントの充実が必要であり、障がい者や、子ども、子育て世代などが互いを知り交流を出る企画の推進を図る。	

評価②

数値目標		R06	R07	R08	R09	R10	R11	自己評価
市	多機関協働事業新規相談年間受付件数	目標値	14	14	15	15	16	3
		実績値	17	15				
市・社協	日常生活圏域ケア会議兼地区懇談会延べ参加人数	目標値	1,050	1,082	1,114	1,147	1,182	4
		実績値	1,628	1,543				
市・社協	アウトリーチ等を通じた継続的支援事業生活支援コーディネーター活動件数	目標値	1,750	1,800	1,850	1,900	1,950	4
		実績値	1,883	2,144				
社協	地域のお宝さがしで認定された地域のお宝の数	目標値	45	59	72	84	96	2
		実績値	33	41				
社協	ちょこっとジョブ応援事業所合計数	目標値	5	10	15	20	25	4
		実績値	14	18				

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】

【取組における成果】

- 高齢者ふれあい相談員事業：市内在住の70歳以上のひとり暮らし及び高齢者世帯に対し、定期的に訪問し、安否確認や相談・助言などを行った。また、市が毎月発行する「ふれあい通信」を届けた。
- 多世代交流イベント事業の開催：福祉やボランティア活動に関する啓発及び市民相互の交流を目的として、福祉まつり等の開催支援を行なった。また、障がいのある方もない方も一緒に交流できる機会を設けることで、地域住民が互いへの理解を深め、助け合いとつながりを育む意識の醸成を図ることを目的に、ふれあい交流会（車いすバスケ）を実施し、25人の参加があった。

【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】

- 高齢者ふれあい相談員事業：ふれあい相談員の確保が難しくなっていることが課題のため、市民全体に対して事業のPR、募集活動を積極的に行う必要がある。
- 多世代交流イベント事業の開催：多世代で交流できるイベントの充実が必要であり、障がい者や子ども・子育て世代などが互いを知り、交流出来る企画の推進を図る。

評価④

推進懇談会評価

- ・コミュニティカフェやオレンジカフェ等について周知不足により、開催場所が分からないという声もある。地域の集まる場等を視覚的に提示するなど、地域住民に向けた積極的なPRをしていただきたい。
- ・今後、地域住民にとって身近な場所で多様な種類の集まる場を整備していただきたい。

基本目標の実現に向けた現状の評価

4 ・ ③ ・ 2 ・ 1

基本目標1 みんなが支え・支えられる地域づくり

基本施策2 多機関協働、多職種連携による支援体制の充実

主な取組・事業(1)	アウトリーチ支援の充実	計画書	P49	～	P50
------------	-------------	-----	-----	---	-----

評価①

市	事業・取組	アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	複雑複合化した課題を抱えながらも、支援が届いていない人に支援を届けるため、要支援者の情報把握を地域において行うとともに、必要に応じた要支援者への訪問等により関係性を構築し、支援に繋がります。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 相談支援包括化推進員を配置し、各相談機関で受けた複雑・複合的な課題を抱えるケースについて、必要に応じて個別ケース検討会議を開催し、支援の役割分担等をコーディネートした。また、参加支援事業との連携により要支援者の社会参加の支援を行った。	
	課題及び今後の取組方針	それぞれのケースに対しての支援は各機関と連携し行うことができた。今後、ますます複合化・複雑化する地域課題に対する対応が求められることから、各相談支援機関における世代や属性を問わない相談の受け止め及び連携の強化を図る必要がある。 重層的支援体制整備事業として、他の相談機関や参加支援事業、地域づくり事業との連携を強化し、包括的相談支援と地域づくりを一体的に行う体制を構築する。	

社協	事業・取組	アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	複雑複合化した課題を抱えながらも、支援が届いていない人に支援を届けるため、要支援者の情報把握を地域において行うとともに、必要に応じた要支援者への訪問等により関係性を構築し、支援に繋がります。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 地域で複雑・複合的な課題を把握するため、気軽に参加できるコミュニティカフェ等の交流拠点を活用したアウトリーチ型の相談を実施した。 さらに、コミュニティカフェに専門職や社協職員が参加することにより、支援につながりにくい住民へのアプローチを実施した。	
	課題及び今後の取組方針	支援につながりにくい住民の把握や、継続的な関係構築には時間が必要である。 今後は、地域関係者との連携を強化するとともに、各種相談機関との連携をさらに深め、要支援者への効果的なアプローチを進めていく。	

社協	事業・取組	地域福祉サポーター活動支援	「地域のお宝」の発見や発掘、地域福祉活動の一助を担うサポーターと協働し、地域内のつながりや支え合い活動の推進を図ります。またサポーターを対象とした研修会(スタートアップ・養成・スキルアップ)を実施し活動の幅を広げます。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 年齢や障がいの有無に関わらず、すべての住民が自分らしく役割を持ちながら社会参加できる地域共生社会の実現を目指し、地域福祉の担い手育成を目的とした「地域福祉サポーター養成講座」を実施している。 令和8年度の本格実施に向けて、地域福祉サポータースタートアップ研修会を開催するとともに、既存サポーターを対象としたスキルアップ研修会も実施し、サポーターの知識・技術の向上を図った。	
	課題及び今後の取組方針	研修を受講したサポーターの中には、地域活動への参加が継続しにくいケースや地域課題の複雑化に伴い、より複雑な課題が生じる場合があるため、継続してスキルアップ講座等の支援をしていく必要がある。	

社協	事業・取組	ふれあい在宅福祉サービスの推進	住民相互の支え合いの精神に基づき、住民の自発的参加と協力を得て、掃除や調理等の家事支援を中心としたサービスを提供し、在宅福祉の推進を図ります。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 地域住民同士の助けあい活動を、高齢者や障がい者などへの在宅福祉サービスにつなげる住民参加型の在宅福祉サービス事業を実施した。 住民が主体となって支え合う仕組みを整えることで、地域における生活支援体制の充実を図った。	
	課題及び今後の取組方針	派遣要請は増加傾向にある一方で、協会員(ボランティア)の確保が難しく、支援体制の維持が課題となっている。 このため、支援内容を精査し、支援が特に必要な利用者への対応を優先的に実施する体制を整えていく。	

社協	事業・取組	企業等との連携	民間企業等の協力を得ながら、企業活動を通じた課題把握などと連携し、困っている人を早期に把握します。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 民間企業(社会福祉法人、株式会社)と連携し、福祉教育事業等を8回実施した。 また、既存の制度では対応が難しく、社会参加への支援が必要な方を対象(参加支援対象者)に、就業体験(ちょこっとジョブ)を実施し、延べ132人が参加した。 さらに、企業から会場の提供を受け、集いの場を実施することにより地域の課題把握に努めることが出来た。	
	課題及び今後の取組方針	既存制度では対応困難な対象者を受け入れるためにも、理解ある協力企業等のさらなる確保と連携強化が必要である。 今後も本事業への理解を深めるとともに、企業等の福祉に対する理解促進を進め、地域福祉における課題把握とその解決に向けて検討をしていく。	

評価②

数値目標			R06	R07	R08	R09	R10	R11	自己評価
市	多機関協働事業新規相談年間受付件数	目標値		14	14	15	15	16	3
		実績値	17	15					
市・社協	日常生活圏域ケア会議兼地区懇談会延べ参加人数	目標値		1,050	1,082	1,114	1,147	1,182	4
		実績値	1,628	1,543					
市・社協	アウトリーチ等を通じた継続的支援事業生活支援コーディネーター活動件数	目標値		1,750	1,800	1,850	1,900	1,950	4
		実績値	1,883	2,144					
社協	地域のお宝さがして認定された地域のお宝の数	目標値		45	59	72	84	96	2
		実績値	33	41					
社協	ちょこっとジョブ応援事業所合計数	目標値		5	10	15	20	25	4
		実績値	14	18					

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】

【取組における成果】

●相談支援包括化推進員を配置し、各相談機関で受けた複雑・複合的な課題を抱えるケースについて、必要に応じて個別ケース検討会議を開催し、支援の役割分担等をコーディネートした。また、参加支援事業との連携により要支援者の社会参加の支援を行った。

【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】

●世代や属性を問わない相談の受け止め及び連携の強化を図る必要がある。
●重層的支援体制整備事業として、他の相談機関や参加支援事業、地域づくり事業との連携を強化し、包括的相談支援と地域づくりを一体的に行う体制を構築する。

評価④

推進懇談会評価

・コミュニティカフェやオレンジカフェ等について周知不足により、開催場所が分からないという声もある。地域の集まる場等を視覚的に提示するなど、地域住民に向けた積極的なPRをしていただきたい。
・今後、地域住民にとって身近な場所で多様な種類の集まる場を整備していただきたい。

基本目標の実現に向けた現状の評価

4 ・ ③ ・ 2 ・ 1

基本目標1 みんなが支え・支えられる地域づくり

基本施策2 多機関協働、多職種連携による支援体制の充実

主な取組・事業(2)	相談を丸ごと受け止める(断らない)体制の充実	計画書	P50	～	P50
------------	------------------------	-----	-----	---	-----

評価①

市	事業・取組	ひきこもり対策事業	ひきこもり状態にある人の障がいについて、家族の理解を得ながら相談支援につなぎ、適切な支援に結びつけることで、本人の自立を促します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる ひきこもり状態にある人の保護者や支援者から相談を受け、障がい児者相談支援センターの相談員が個別相談を実施した。	
	課題及び今後の取組方針	ひきこもり状態にある人とその保護者や支援者を相談につなげるための啓発を課題として庁内、関係機関と連携会議を実施する。	

市	事業・取組	こども家庭センター相談窓口 とちはぐ	こどもに関する全ての相談を受け付け、必要に応じた支援や関係機関につなぎます。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる こどもや子育て家庭等多くの市民に親しまれ、身近な相談支援機関としてより有効に利用されることを目指して、公募により相談窓口の愛称を「とちはぐ」に命名した。窓口に来所する市民の妊婦やこどもに関する全ての相談を受け、支援した。	
	課題及び今後の取組方針	保健師、助産師、看護師、管理栄養士、保育士等の多職種が在籍しているため、広い視野で相談に対応することができている。今後も引き続き職種を越えて連携しながら支援していく。専門職はそれぞれ事業(乳幼児健診等)があり、業務多忙で不在にしていることもあるため、リアルタイムで相談に対応できない現状がある。	

市	事業・取組	コミュニティカフェ での相談窓口設置	各種コミュニティカフェの開催時に相談窓口を設置し、参加者および会場周辺の来場者に対して相談の受け入れ体制を強化します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 認知症の方、そのご家族及び地域住民が気軽に集まり、交流を楽しめる場所を「認知症カフェ」として登録し、広く周知することにより、認知症の人とその家族を支える地域づくりを行う。また、併せて認知症についての市民の理解を促進する。(令和7年度 活動団体:19)	
	課題及び今後の取組方針	認知症の方及びそのご家族の参加状況が、地域や団体によって差異がある。また、市内における事業への認知度も高いとは言えない。参加には移動などの課題もあることから、身近な場所での居場所の増加など、認知症の方や家族が継続参加できる場を増やす必要がある。また、認知度に関しては、向上を目指し既存の周知方法の拡大や新たな形式での周知方法を行う。	

社協	事業・取組	コミュニティカフェでの相談窓口設置	各種コミュニティカフェの開催時に相談窓口を設置し、参加者および会場周辺の来場者に対して相談の受け入れ体制を強化します。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 年齢や障がいの有無に関わらず、地域のあらゆる住民が自分らしく、それぞれに役割を持ちながら参加できる「地域共生社会」を目指し、地域住民の交流の場・相談の場を目的としたコミュニティカフェを55回開催し2,010人の参加があった。 また、その交流の場には専門職または、職員が参加することにより、来場者の相談窓口として活動した。	
	課題及び今後の取組方針	コミュニティカフェでの相談窓口を設置により相談窓口の敷居を低くすることは出来たが、相談内容の多様化や解決困難な相談が増えている。 今後は、地域関係者や各種相談機関との連携を強化し、相談内容に応じた適切な支援につなげる体制の充実を図る。	

社協	事業・取組	各種事業での相談窓口設置	社会福祉協議会が行う各種事業の開催時に随時相談窓口を開設し、相談窓口の受け皿を増やします。また、受けた相談については必要に応じて関係機関へつなぎます。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 社会福祉協議会が実施する各種事業(福祉まつり、地区懇談会、コミュニティカフェ等)に、専門職や社協職員が常駐し、各種相談を受け付けられる体制の整備を図った。	
	課題及び今後の取組方針	各種事業での相談窓口の設置により相談機会は増えたが、相談内容の多様化や解決困難な相談が増えている。 今後は、地域関係者や各種相談機関との連携を強化し、相談内容に応じた適切な支援につなげる体制の充実を図る。	

社協	事業・取組	企業等との連携	民間企業等の協力を得ながら、企業活動を通じた課題把握など連携し、相談窓口の幅を広げます。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 民間企業(社会福祉法人、株式会社)と連携し、福祉教育事業等を8回実施した。 また、既存の制度では対応が難しく、社会参加への支援が必要な方を対象(参加支援対象者)に、就業体験(ちょこっとジョブ)を実施し、延べ132人が参加した。	
	課題及び今後の取組方針	既存制度では対応困難な対象者を受け入れるためにも、理解ある協力企業等のさらなる確保と連携強化が必要である。 今後も本事業への理解を深めるとともに、企業等の福祉に対する理解促進を進め、地域福祉における課題把握とその解決に向けて検討をしていく。	

評価②

数値目標			R06	R07	R08	R09	R10	R11	自己評価
市	多機関協働事業新規相談年間受付件数	目標値		14	14	15	15	16	3
		実績値	17	15					
市・社協	日常生活圏域ケア会議兼地区懇談会延べ参加人数	目標値		1,050	1,082	1,114	1,147	1,182	4
		実績値	1,628	1,543					
	アウトリーチ等を通じた継続的支援事業生活支援コーディネーター活動件数	目標値		1,750	1,800	1,850	1,900	1,950	4
		実績値	1,883	2,144					
社協	地域のお宝さがしで認定された地域のお宝の数	目標値		45	59	72	84	96	2
		実績値	33	41					
	ちょこっとジョブ応援事業所合計数	目標値		5	10	15	20	25	4
		実績値	14	18					

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】	
【取組における成果】 ●ひきこもり状態にある人の保護者や支援者から相談を受け、障がい児者相談支援センターの相談員が個別相談を実施した。 ●保健師、助産師、看護師、管理栄養士、保育士等の多職種が在籍しているため、広い視野で相談に対応することができている。 ●各種事業（福祉まつり、日常生活圏域ケア会議、地区懇談会、コミュニティカフェ、認知症カフェ等）に、専門職や市・社協職員が常駐し、各種相談を受け付けられる体制の整備を図った。 【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】 ●事業での相談窓口の設置により相談機会は増えたが、相談内容の多様化や解決困難な相談が増えているため、引き続き連携等を強化していく。 ●ひきこもり状態にある人とその保護者や支援者を相談につなげるための啓発を課題として、庁内・関係機関と連携会議を実施する。	

評価④

推進懇談会評価	
・コミュニティカフェやオレンジカフェ等について周知不足により、開催場所が分からないという声もある。地域の集まる場等を視覚的に提示するなど、地域住民に向けた積極的なPRをしていただきたい。 ・今後、地域住民にとって身近な場所で多様な種類の集まる場を整備していただきたい。	
基本目標の実現に向けた現状の評価	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1

基本目標1 みんなが支え・支えられる地域づくり

基本施策2 多機関協働、多職種連携による支援体制の充実

主な取組・事業(3)	多機関協働による包括的な支援体制の充実	計画書	P51	～	P51
------------	---------------------	-----	-----	---	-----

評価①

市	事業・取組	重層的支援会議	複合的な課題等に対応する相談支援を円滑に行う体制づくり構築のため、各相談機関の管理者により支援プランの決定やモニタリングを行う調整会議、関係相談機関の担当者により支援プランの検討等を行うケース検討会議を開催します。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 福祉総合相談支援センターを構成する相談機関の管理者を構成員とし、調整会議で支援プランの決定やモニタリング、個別ケース支援の助言等を行った。 また、個別ケースに関係する相談支援機関職員と相談支援包括化推進員を構成員とし、個別ケース検討会議を開催し、複合課題を抱える世帯への支援プランや支援機関の検討を行った。	
	課題及び今後の取組方針	制度の狭間にあるケース等、既存の制度で対応できないと判断されたケースについての対応を今後も検討していく必要がある。 今後ますます複雑・複合化する地域課題の対応を求められることから、各相談支援機関における世代や属性を問わない相談の受け止め及び連携の強化等、対応力の向上を図る。	

市	事業・取組	多機関協働事業	複合的な課題を抱える世帯に対し、相談支援包括化推進員のコーディネートにより、様々な分野の相談支援機関が横断的かつ包括的に連携した相談支援を行います。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 福祉ニーズの多様化・複雑化に伴う複合的な課題を抱える世帯等に対し、対象者別の縦割りの相談体制ではなく、各相談機関の横断的な連携体制を構築するため、コーディネーター役である相談支援包括化推進員を配置し、包括的な支援を行った。	
	課題及び今後の取組方針	今後もケース支援を通して、相談支援包括化推進員と相談機関や関係団体等とのネットワーク構築及び地域資源の把握、マッチングを行う。	

評価②

数値目標		R06	R07	R08	R09	R10	R11	自己評価
市	多機関協働事業新規相談年間受付件数	目標値	14	14	15	15	16	3
		実績値	17	15				
市・社協	日常生活圏ケア会議兼地区懇談会延べ参加人数	目標値	1,050	1,082	1,114	1,147	1,182	4
		実績値	1,628	1,543				
市・社協	アウトリーチ等を通じた継続的支援事業生活支援コーディネーター活動件数	目標値	1,750	1,800	1,850	1,900	1,950	4
		実績値	1,883	2,144				
社協	地域のお宝さがして認定された地域のお宝の数	目標値	45	59	72	84	96	2
		実績値	33	41				
社協	ちょこっとジョブ応援事業所合計数	目標値	5	10	15	20	25	4
		実績値	14	18				

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】

【取組における成果】

●個別ケース検討会議を開催し、複合課題を抱える世帯への支援プランや支援機関の検討を行った。

【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】

●今後ますます複雑・複合的する地域課題の対応を求められることから、各相談支援機関における世代や属性を問わない相談の受け止め及び連携の強化等、対応力の向上を図る。

評価④

推進懇談会評価

・コミュニティカフェやオレンジカフェ等について周知不足により、開催場所が分からないという声もある。地域の集まる場等を視覚的に提示するなど、地域住民に向けた積極的なPRをしていただきたい。
・今後、地域住民にとって身近な場所で多様な種類の集まる場を整備していただきたい。

基本目標の実現に向けた現状の評価

4

・

③

・

2

・

1